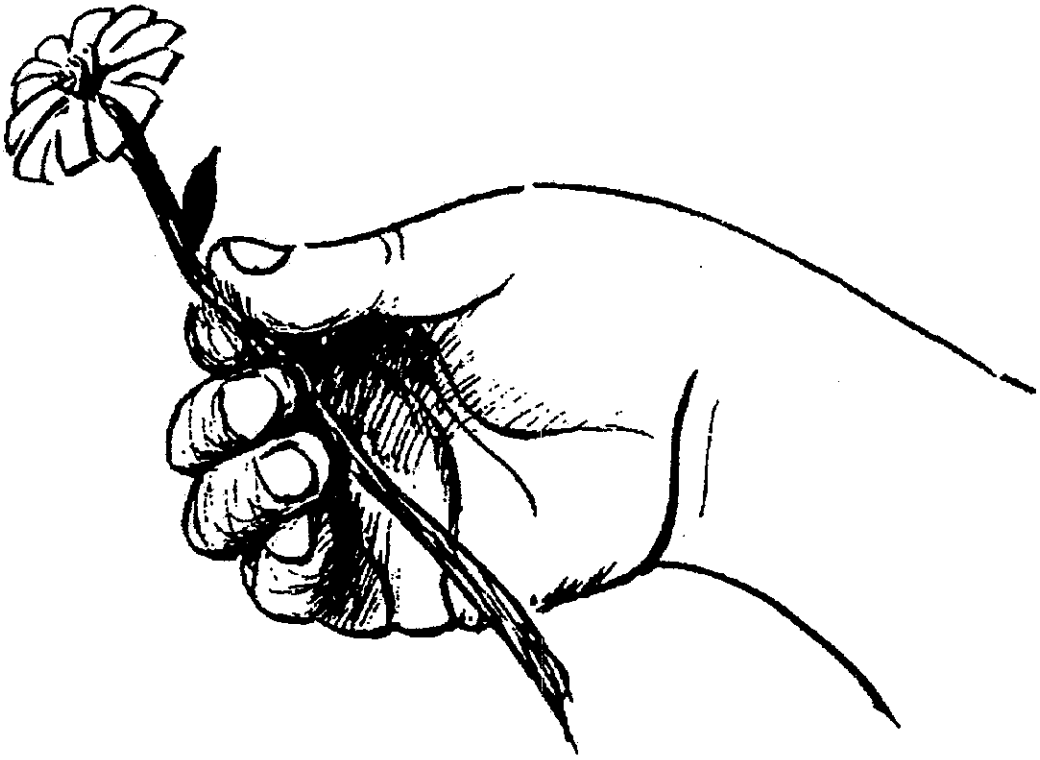
令和２年度

高齢者学級文集

# たわごと

第 38 号



油谷中央公民館

人　丸　学　園

# 目次


はじめに　会長　田中　富惠
人丸学園歳時記　人丸学園　会員一同　1
「たまご」　大坊　上野　洋子　9
若手委員会発足　伊上桜炎塾　槇田　健　10
老いと共に　東大坊　田中　富惠　12
「蔵小田の白魚とりは築場にて」　掛渕　西川　豊　13
近頃思うこと　大坊　上野　洋子　18
萩明倫学舎にて　大坊　上野　洋子　19
【特別寄稿】　油谷郷土文化会　髙林　正義　20
川柳　大坊　元永　ミチコ　21
運転免許を習得したころの思い出　新別名　柴田　昌俊　22
四つ葉のクローバー　久富　松岡　紀美惠　26
母と弟の想い出　大坊　元永　ミチコ　27
かっぱ川太郎　東大坊　長谷川　倭子　29
筋力運動はじめました　大坊　上野　洋子　34
絵手紙　東大坊　田中　富惠

# はじめに

人丸学園
会長　田中富惠

コロナに負けるな！頑張ろう！

令和二年度は、新型コロナウイルスで、世界中が騒然となりました。今も続いております。
おかしいな？　コロナって伝染病？
わからない。

皆既日食のとき、太陽の縁から四方に輝き出る真珠のような光。その太陽から、外輪に出る光景だそうです。
その姿形が『ウイルス』の形と同じように見えるので、この名がついたらしい。
世界中が、コロナウイルスに対応し戦っている。
人丸学園も、恒例の行事は殆どできなくなりました。
市役所関係の行事も殆どできません。

すべての対応に大童です。
私たちが出来ることは、
『守らなければいけない事は、一生懸命心して、守る』という事です。
このような状態であっても、会員の皆様から提出された雑巾を配布する事ができました。
菱海中学校、油谷小学校、向津具小学校、菱海保育園、向津具保育園へと配ることができました。
一針一針、縫って下さった方もありました。

「このような時期に何か出来ることはありませんか？」
「ストレスを溜めない方法をとか。」
「自分の趣味や、折り紙、保存食を作るとか。」・・・・
なんでもいいんです。

新型コロナウイルスとは、一つの戦いです。
負けてはいけません。
がんばりましょう。

# 人丸学園歳時記

## 令和二年四月二十二日

## 紙面による閉講式　開講式

例年であれば　この時期は忙しいなかにも春を待つ心で浮き立っているのですが　二月に始まった新型コロナウィルスのため　いろいろの制約を受けております。

予定しておりました講演会や閉講式も中止となりました。それらの中にあって　文集「たわごと」が出来たのは嬉しいことです。事務局の好意により立派な冊子ができあがりました。

事務局より閉講式　開講式を紙面でやろうと言われ大いに賛成しました。

閉講式は会計報告　年間行事の発表がありました。

また、開講式を前に役員の選定を行いました。

会長　田中富江

会計　松岡紀美恵

監査　一戸和男

みんなで協力してやる事になりました。

行事は今の状態では決めにくいので集会できる時期まで待つ事にします。

開講式好例のおたのしみ袋は　勝手に作らせてもらいました。配付は書類と共に　田中さん・松岡さん・柴田さん・佐方さんが　入り口配付で行いました。

コロナウィルスの注意点は　テレビ　新聞　市役所の伝達で皆様よくご存知の事と思いますが　自分から留意してこの戦(いくさ)を克服しましょう。

令和二年六月十二日

## 第一回運営委員会

二月から始まった新型コロナウイルスの影響はかなり大きく、予防策が行われています。
皆が皆、人に迷惑をかけまいの思いで　できるだけの予防策につとめております。
この度　公民館の許可を得て　初めての運営委員会を開くことが出来ました。
しかしながら　今後の予定が決まりませんので一応　希望予定として　暫時お知らせいたします。

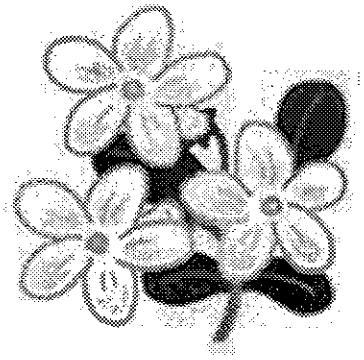
会長より
「大変な時ですが　みんなで協力して　コロナウイルスが去るのを待ちましょう。思いつくことがあれば何でも仰って下さい。」
と言われました。

会員の皆様には　健康に充分留意して　少しでも早くお逢いしたいと思います。

七月三十一日

## 第二回運営委員会

新型コロナウイルスの予防策のため　例年の行事が殆ど中止になっております。
田中会長と事務局より　三密を守り　運営委員会を開くことになりました。
今年度の会費は　千円とすることにしました。
毎年行っている雑巾の件は　会員に再度提出をお願いします。
配布は八月になると思いますが　学校・保育園と相談します。



## 雑巾配布について

短かった夏休みが終り二学期が始まりました。

八月二十六日　朝の挨拶運動が行われました。学校と地域のふれあい運動の一環です。

このたび　人丸学園も参加し　あいさつ運動終了後には雑巾の寄贈を行いました。

新しく菱海中学校に赴任された校長先生は女性で　いきいきとして活発な方のようです。このような時期で　ゆっくりお話もできませんでしたが　人丸学園が　油谷中央公民館の高齢者学級で　毎年会員による手造り雑巾を持参している事を話しました。

翌日八月二十七日は　油谷小学校で朝のあいさつ運動が終わったあと　新たに赴任された長廻校長先生のお話しがありました。

学校だけでなく地域の人の協力を得て　児童を立派に育てたいとのことでした。

その後　人丸学園より　会員の手作りの雑巾の話をしながら手渡ししました。

あくる日　早速お礼の文書が届けられました。

つづいて八月二十八日は　向津具小学校に出向き　朝のあいさつ運動の後に　雑巾の寄贈をしました。

往年に較べ生徒は非常に少くなりましたが　みんな元気でした。前田校長先生より感謝の言葉を頂き　大いに利用しているとの事でした。

十月二日　向津具保育園へ。　田中会長・松岡さん・事務局の田村さんと　午前中に行きました。

当日は小運動会で　終ったところでした。

園長先生に毎年の雑巾の寄贈ですと手渡ししました。

可愛い園児が四人　にこやかに顔を出してくれました。

続いて菱海保育園へまいりました。こちらも小運動会が

終って片付け中でした。ゆっくりお話もできませんでしたが　油谷中央公民館の高齢者学級　人丸学園の会員の手縫いである事を告げて手渡ししました。

大きな足ふきマットもありますから大いに利用して下さい。

コロナ騒動で配布が大変でした。ご苦労さまでした。

菱海中学校

向津具保育園

菱海保育園

## 十一月十八日
## 高齢者学級合同講演会
## 於　旧伊上小学校

今年度　始めての会合です。今日は朝から小春日和です。コロナ対策の換気は窓を開けて気持ちいいです。会場入口では　検温・消毒が行なわれ　席も間隔をとって用意されていました。

まず　伊上桜炎塾の槇田会長のご挨拶。コロナの影響は地方にも及ぶ。自分の健康は自分から守る事だと話された。

講話は　西地域包括支援センターの大田明美センター長です。

演題が「さらに元気にフレイル予防」となっております。まずフレイルが判らない。これは「もしかしたら?」「・・・かもしれない。」と言うことだそうです。

フレイル予防には　まず（栄養）（身体の　活動）（社会参加）であります。

自分の事は自分でする。それを手助けするのが　支援センターの役目です。今日は　特に　口を動かす事を話します。口を動かすことによって元気になります。テキストを見ながらやってみて下さい。顔を動かす事によって元気になります。

（心の隅で思ったこと・・・

① 顔の体操は　美顔術である

② 口の運動は　喜怒哀楽である）

休憩のあとは　槇田会長のギター演奏です。楽しい曲・優しい曲・ちょっとわからない曲・いろいろ聞かせてもらいました。

短い時間の会合でしたが　なつかしい顔にも逢えました。

最後に人丸学園の田中会長より　この会を催すについて　コロナ対策に気配り頂き感謝している事。又出席者の皆様にも協力を頂きお礼を申されました。

## 令和三年一月二十九日

### 油谷小一年生と昔の遊びで交流

事務局の田村さんより　急きょ油谷小一年の交流会に出席依頼がありました。内容は　「昔の遊びについて」ということで　田中・松岡・長谷川の三人で出席する事にしました。

当日一月二十九日　油谷小の広い体育館では　四つのグループ分けがしてありました。

「こま」「めんこ」「竹とんぼ」「お手玉」一年生全員が時間をきめて　四つの遊びを体験するということです。

長谷川は　お手玉しかできません。田中・松岡は勇気を出して　竹とんぼチームに行きました。

めんこ・こままわしは男性の方です。

めんこは　ボール紙状の物で　角型や丸型があり　強そうな武者絵等が描かれています。

平面上においた面を　相手方が自分のめんこでたたきつけます。その風で置かれた面子がひっくりかえれば勝となります。又は風力で枠外に出れば勝になりますが　大変力がいります。ここでは「パッチン」と言って随分流行(はや)ったものです。

こまは独楽と言って独りでもできますし　種類も多いです。この度使ったこまは木製で縁(ふち)に鉄輪のついて　心棒に紐を巻きつけて廻すものです。巻きつけて紐を引くのがなかなかむつかしいです。

竹とんぼは作るのもむつかしい。プロペラの形を削り真棒を回転させて飛ばせる。今回は出来た竹とんぼを両掌で拝(おが)むようにして　飛ばせるのだが　簡単にはとんでくれない。

お手玉は多少やった子供もいる。指導する者が高齢のため、以前のように手が動かない。事務局の田村さんが　うまく見本をやってみせた。始めての子に　右から左に廻す事を教える。何回かくりかえすうちに出来るようになった。あとは練習次第。

短い時間でしたが　いくらか昔の遊びに挑戦できたと思います。

最後は　児童のげんこつ握手で一人一人お別れしました。

コロナ渦の中での行事で　関係者の方々大変だったと思います。

## 令和三年三月四日
## 高齢者学級合同講演会

今回は伊上地区・人丸学園の二回目の合同講演会です。丁度高齢者作品展が開催されています。九時より各人　血圧測定・問診・記名等を行い　マスク着用と新型コロナウイルス対策を行いました。

九時三十分より開会。

まず人丸学園の会長　田中富恵さんの挨拶。今回の絵手紙の指導　講師もつとめられます。

つづいて　公民館の中村館長のお話。

苦しい事は　あまり考えず　楽しい事をするが良い。自分のできることを楽しもうとのことでした。

早速　絵手紙教室が始まりました。講師の田中さんが　材料を全て用意して下さって　絵手紙の描き方の説明　自分の描かれた作品を並べて見本としました。約一時間ばかりでしたが　みんな一生懸命に描いておられました。

休憩の後は　油谷交番の所長さんのお話です。

最近は特にうそ電話が多いそうです。おかしいと思ったら　すぐに家族や知人　そして警察に知らせる事。独りで悩んではいけない。

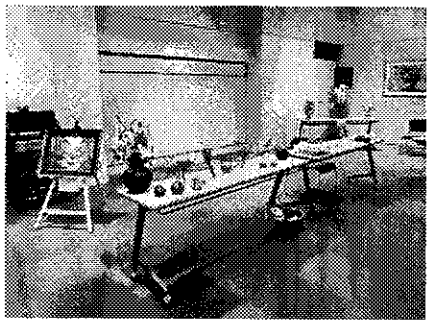
又、交通事故は　乗る人も歩く人も充分注意してあせらず　余裕を持って行動する事。何事も警察に相談するように話されました。そして全員交通グッズを頂きました。

最後は伊上地区の槇田会長のお話。

コロナウィルスについて　ワクチン注射が始まるので　自分の体を　よく注意して　なるべく　かかりつけの医者と相談をする事が大事と言われました。

閉会の辞で一応講演会は終りましたが　絵手紙を続ける人もありました。できた作品は　下手でもいい。今開催の高齢者作品展に置く事にしました。講師の田中さんには　大変お手数をかけました。

公民館の方には　机・椅子の収納から　再度　展示作品を並べたりと、大変お手間をかけました。



## 令和三年三月二日～三月五日
## 公民館高齢者学級作品展

ラポールゆやのコミュニティホールで　高齢者学級の作品展を開催しました。

平素から　描いたり　作ったりしたもの。何でもいいから　こういうことができるということを　たくさんの方にみてほしいとの思いで開催しました。

素晴しい蘭（らん）の鉢もの　受賞された絵画作品　あだやかな書　リサイクルで作られた座椅子　しめ飾り　俳句等。圧巻は絵手紙を始めとするさまざまのスケッチ等。

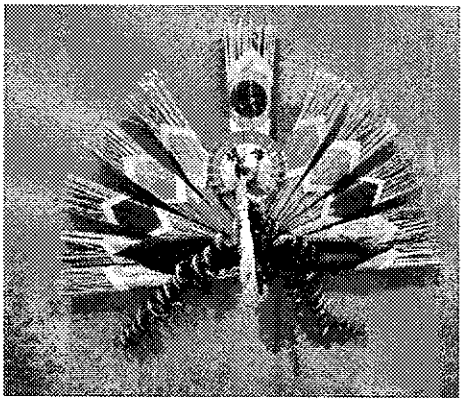
願わくばいますこし作品が並んでほしかった。

それでも　かなりの人に来て頂きました。

遠い所からこられた方も何人かおられました。

コロナウイルスのため　作品がすくないとか観る人がすくないとか言っても　公民館側は大変。部屋から椅子・机の消毒　受付　問診と大忙しでした。

無事におわることができて大安心。



# 「たまご」

上野洋子

先日「烏骨鶏」のたまごと出会いました。出品者名を見ると、長門市老人クラブ連合会が発足した時に事務局長で　ずい分お世話になった渋木の杉山さんの名前がありました。

なつかしくなって、さっそく電話しましたら、お元気そのものの杉山さんでした。

自分で羽化して育てた烏骨鶏のたまごを出品しているとのことでした。一般的な鶏卵の半分以下の大きさでかわいらしく、産卵率も劣るようです。放し飼いで、元気よく飛び回っている様子。

ですが、長くは生ませないで、一年位で次の代に移行させて、その育成を楽しんで居られる様子がうかがえました。水曜日と土曜日に出品されるとかで、三コ入り一パックを六コづつの出品なので、運が良くないと行き当たりません。

またまたある日のことです。

別の方から「みどりのたまご」をいただきました。

下関市在住の方ですが、この方も自分で卵から育てて、これも放し飼いだとのこと。

外で自由にしていても夕方になると自分たちの生まれた部屋にもどって眠るのだそうです。

いろいろな動物に襲われるのではないかと聞いてみると、おんどりが三羽いて、すごい勢いで飛びかかっていき、退散させるそうです。

余りにも強気で未だにに飼い主のご主人にも向かって来ると笑って居られました。

最近にしてはめずしく、頼もしい「お父さん姿」を想像しました。

# 若手委員会発足

伊上桜炎塾・代表　槇田　健

令和二年の春から長門市老人クラブ連合会（以下、市老連）の事務局長に就任しました。

それと同時に山口県老連の若手委員に任命され、そちらの仕事もするようになりました。

当然、市老連の若手委員会の今年度から発足しました。なり行き上、委員長も務めています。

「若手」とは、七十五歳以下の会員です。

市老連には、およそ百名の若手会員が加入しています。

若手委員会の一番の使命、それは「老人クラブ会員を増やすこと」です。

どうやって増やすか、です。その方法が問題です。

入ってください、と言葉だけで勧誘しても効果は薄いでしょう。

やはり、入って活動してみようか、と思わせるイベントを企画するしかないと思います。

そこで、二つの規格を考えました。

一つは「歌声喫茶開店」です。

年齢を重ねると喉の力が弱くなるらしいのです。弱くなると、誤嚥を起こして肺炎になったり、新型コロナウイルスに感染したら重症化する可能性が高いといいます。

歌声喫茶は、喉を鍛えるために歌を歌うために開きます。

歌う曲数も二十曲以上。曲種は、誰でも一度は歌ったことのある童謡や歌謡曲を中心に歌います。

カラオケもいいのですが、一人が歌い大勢が聞くというスタイルは取りません。

参加者全員が主人公として歌います。

十曲ほど歌ってコーヒータイム。お菓子を食べてお喋りを楽しみます。その後、もう十曲ほど歌います。

このくらい歌うと喉が強くなるはずです。

毎週一回実施、せめて月に一回実施が理想なのですが、今はコロナ禍でそれも叶いません。

せめて、年に二回程度各支部（七支部）を回って歌声喫茶を開店したいと考えています。

もう一つは、「スクエアステップ体験会」を実施することです。

スクエアステップとは何かを、スクエアステップ教会のチラシから引用してみます。

> 高齢者の転倒予防・要介護予防、認知機能向上をはじめ、成人の生活習慣病予防などに効果のあるエクササイズです。

音に合わせて、一辺25cmの正方形を横4個、縦10個の計40個を並べたマットの上で足ふみの仕方が複雑になっていきます。

足ふみ運動ですから、誰でもできます。できますが、少づつ足文の仕方が複雑になっていきます。

当然、戸惑います。間違えます。でも、それが脳を刺激します。間違えても、笑って前に進めばいいのです。

それを見ていた仲間が、「がんばって」「大丈夫よ」と励まし、応援してくれます。

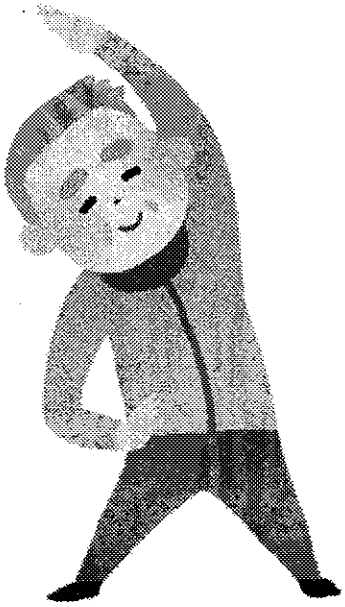
笑顔が生まれ、少し汗をかき、頭がすっきりするのです。

今年はコロナ禍で、委員会を立ち上げたものの計画通りに事は運びませんでした。

歌声喫茶は、十二月上旬に何とか規模を縮小して実施したが、スクエアステップ体験会は、二月に延期しました。更に、二月の会も再度延期を余儀なくされました。

新型コロナ問題に振り回された一年でありましたが、これに懲りず前を向いて若手委員会の活動を進めることが、長門市の高齢者を支える一助になると信じて頑張ります。

兎に角、一日も早いコビット19の終息を願っているところです。



# 老いと共に

田中富惠

「年かなー。」

昔出来たことが出来なくなりました。
あたり前です。
誰でも年はとります。

「計算力が落ちちゃった。」

あたり前です。
ゆっくりやればいいですよ。
解らなければ聞けばいい。

「聞くのが恥ずかしい？」

そんなことはありません。
その人だって年をとる。

「大変だ！！！！！　大変だ――――！」
新しいことが覚えられない。
わすれることもある。ある。ある。
当たり前です。
でもね。
覚えてる事も、たくさんあります。

「まだ　まだ大丈夫。」
と自己暗示をかけ。

ご飯もおいしい。
肉も魚も大好きです。
野菜だって食べます。

なんでも体操やってます。
頭の体操。
身体の体操。
指の体操。
おしゃべりに、歌や、
やることといっぱいありますね。
年だってことは忘れましょう。
無理なく、きれいに、付き合いましょう。

# 「蔵小田の白魚とりは簗場にて」

Dr 西川　豊

私は、昭和四十年初め頃、下関の長府に住んでいた。

油谷の芝崎でシロウオが沢山取れると云う話を聞き、油谷の実家に頼み、長府から俵山経由で油谷までシロウオを取りに来ていた。

当時は軽四輪車で往復約五時間位かかり、ビニール袋に酸素を入れて貰い、長府まで持ち帰った。

長府では、シロウオは大変珍しかった。

仲間は十人位いたが食べ方が判らず、無難なポン酢の踊り食いにした。

のど越し感が格別だった事を覚えている。

後に、私は東京へ転勤となるが仕事の関係から、釜石や八代方面にも出かける機会が多く、シロウオと出会うチャンスがあり、今度は料理店で食べ方などの話を聞きながら数品目の料理を美味しく頂いた。

因みに、その地域で印象に残る食べ物は、

「八代の球磨川アユ」で、大変大きく鯖くらいあり食べ応えがあった。

また、釜石の「ホヤ」これは癖があるも酢物が美味しい。

私は平成十八年退職後、油谷の実家へ帰った。

その頃は鵜の石で「四ツ手網」の梁漁が行われていた。

しかし、二年位で簗漁は止められた様子。

私は、退職後も石川県内のある研究所の技術顧問を務め、石川県穴水方面へ行くことが多く、時期にはシロウオをよく食べた。

当地ではシロウオを「いさざ」と呼ぶ。

同じシロウオでも、料亭で食べるシロウオの方が美味しいよ。

因みに、石川県穴水方面の「魚文化」は油谷とよく似て

いる。

さて、ここからは「蔵小田の白魚とりは簗場にて」の背景を今の視線で追ってみた。

まえおき

句を追っていくと、多少理屈ぽくなる。

①蔵小田とは、油谷では、掛渕・渡場・上蔵小田・下蔵小田など掛渕川沿いの集落を蔵小田と呼んでいるが、蔵小田の語源は不明。

②掛渕川とは、源流は日置の畑ダムで途中複数の小河川が合流し、油谷湾へ流れ込む全長十三kmの二級河川。

さらに、大坊ダムから流れる大坊川と渡場の新橋付近で合流している。

河口部に「汽水域」があり、本流は簗場橋から鵜の石付近までが汽水域。一方大坊川は、山陰線の鉄橋付近までが汽水域。

いずれの地域の川底は小石が並ぶ絶好の産卵場でもある。

③シロウオ（素魚）とは、「はぜ科」に属し、油谷湾内を回遊し、餌はプランクトンだ。

産卵期には掛渕川の「汽水域」まで群れをなし、溯上し産卵する。

しかし、簗が待ち受け、多くが捕獲される。

シロウオ（素魚）と類似魚にシラウオ（白魚）がいるが、シロウオとは別の種類でシラウオ(白魚)科に属している。

当地は、シロウオ・シラウオの区別はせず、すべて白魚と呼ぶ習慣がある。

更にシラス（白子）も類似魚だが、イワシなどの稚魚である。

シラウオ・シラスは油谷湾内を回遊しているが、産卵期に掛渕川を溯上した記録は無い。

（汽水域は、海水と真水が混じり合う所）

④簗とは、川を堰き止めシロウオをはじめ、アユ、蟹、

うなぎなどを取る施設のこと。
代表的施設は、溯上（シロウオ）する魚類を捕獲するもの、下る（落ちアユ）魚類を捕獲する施設があり、それぞれ簗の構造が違う。
掛渕川の簗は主に産卵のため溯上するシロウオ向けに出来ている。

☆上蔵小田の簗場の歴史

上蔵小田は、簗場橋（旧コンクリート橋）付近に簗がある。
油谷町史から引用すると、大正時代の終わり頃まで、地域の祭りごとの中に、近郊の若者が集まり簗場相撲が行われ賑わったと記されている。
上蔵小田の簗場は、おそらくそれ以前から平成十五年頃まで「簗漁」が続いたと思われ、掛渕川で最も古い簗場でしょう。
簗場と云う地名は不明だが、簗場橋は残っている。
昭和四十年初め頃、簗場で簗漁が行われていたが、次第に漁獲量も減り入札制度なども取り入れられた。
その制度も運営難になった結果、簗漁は上蔵小田で一軒のみ平成十五年頃まで続けられた。
しかし、先細りの簗漁、高齢化、人手不足からその歴史を閉じることになった。
「蔵小田の白魚取りは簗場にて」は歴史を感じさせる句である。

☆掛渕川の三地区にあった簗場の様子。

その一、上蔵小田地区の「箱樋付網法」
簗は、浅瀬に小石を一文字に並べた形で、溯上したシロウオ群を左岸に集める簗だ。
捕獲は、「箱樋付網」で水流に沿って流れ込むシロウオを捕獲していた。

上蔵小田の久保家に「箱樋付網」が残っている。

その二、鵜の石地区の「四ツ手網法」

漁の歴史は、昭和四十年頃から平成二十年頃まで、「四ツ手網法」で行われていた。

簗は、鵜の石の川底に大きめの石塊をVの字並べた一般的な形状である。

絵になる「四ツ手網法」で運営したが、掛渕川の本流は川幅が広く（百m）、更に潮流差が大きく維持管理に苦労した様子。

今も干潮時に簗の痕跡が現れる。

また、掛渕漁協の倉庫に「四ツ手網」の金枠や網が残されている。

その三、柴崎地区の「地獄網法」

掛渕川水系大坊川で昭和三十五年頃から平成十五年頃まで行われた。

簗は、浅瀬の川床に石を並べた方式で（汽水域）の代表的な簗の形。

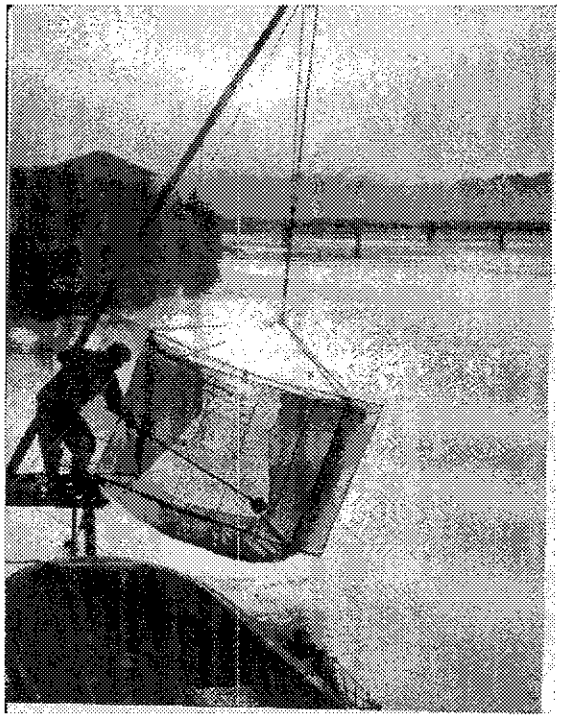
簗に沿って移動するシロウオ群を逃げ場のない「地獄網」でバッサリ捕獲していた。

芝崎の簗漁は一時期、長門近辺で随一の捕獲量を誇っていた。

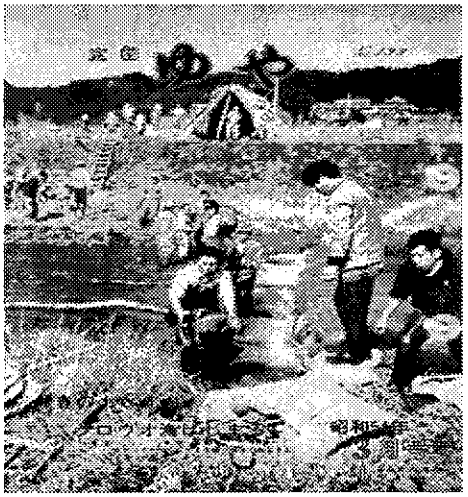
芝崎部落の収益も高く、集会所を建設したという逸話も残っている。

しかし、油谷湾に流れ込む河川に仕掛けた簗漁は平成十五年頃から原因は不明だが、シロウオの魚影は少しずつ消えていった。

何年先に戻ってくるか誰にも判らない。



（鵜の石の四ツ手網漁）




（昭和五十四年）

（蔵小田上の簗漁風景）

（昭和五十一年）

# 近頃思うこと

上野洋子

～ある日の新聞より～

「５Ｇ」
「Ｊアラート」
「パーマネント（半永久）」
「オンライン」による「トークショー」
「ユーチューブ」
「ＭＣＰグループ
（香港に拠点を置くアジア有数の金融グループ）」
「ＳＤＧｓシンポ
（女性の働きなどを考えるシンポジウム）」
「プログラミング教育のマニュアル無償で」
「パーソルプロセス＆テクノロジー社」

このようなカタカナ語や英字がいたるところにあり、今時の新聞記事の本当の理解が難しくなりました。

題字や前後の本文から大よその『スジ』を感じて読んでいる状態です。

八十歳代のみなさんはいかがでしょう？

～師走のある日～

宅配便が届きました。漬物のセットでした。その中の一袋。

千枚漬けを皿に移し、その蕪の色の白さと薄さに驚いていると、側から、

「千枚ないんか？」

と相変わらずの食いしん坊の声。

聞きながしてみとれていました。

昔の漬物のイメージとは違い、塩味はかなり薄く、減塩食を心掛けている私にとって、珍しく合格印。食事の後の一口という食べ方ではなく、野菜メニューとして重宝しました。

朝の目覚ましにもなりました。

朝一番　熱い紅茶に　千枚漬け。

## 萩明倫学舎にて

上野洋子

久し振りに　萩のまちを歩いた。と云っても、私は乗用車後部座席窓越しの散策です。

車は萩明倫学舎へ入りました。その頃、萩の高校生が　歴史的に古い文献等を大発見して　テレビの鑑定団に出たりして話題を呼んだのです。旧い校舎では数々の歴史が再現されていました。最後に朗唱の声の聞こえる教室をのぞきました。

「松陰先生のことば」と書いてある小冊子をひろげ教室いっぱいの人々が　大きな声で　朗唱していました。

私も加わって　大声で発声しました。

明倫小学校では、毎朝みんな必ず朗唱しているそうです。

昭和五十六年から　各学年毎学期一文ずつ

卒業までに十八文の朗唱を続け現在に至っているとの事でした。

松陰先生のことば　小学一年生一学期朗唱文。

今日(きょう)よりぞ
幼心(おさなごころ)を打(う)ち捨(す)てて
人(ひと)なりにし
道(みち)を踏(ふ)めかし

（現代語訳）

今までは親にすがり甘えていたが、小学生となった今日からは　自分の事は自分でし、友達と仲良くしよう。

【特別寄稿】

油谷郷土文化会　会長　髙林正義

## 日本通貨略史　Ⅱ　（中世史）

令和二年（前回）第一回古代史において、七世紀以前は物々交換の時代であったが、七〇八年「皇朝十二銭」（主として銅貨）の発行から宗銭の輸入までを書いた。

いま一つ、マルコポーロの「東方見聞録」について。一一二四年「金色堂」が岩手県平泉町に建立されたことが、中国に大げさに伝わって「見聞録」でヨーロッパ中に知られるようになり、一四九二年コロンブスの新大陸の発見につながったことも付加しておきたい。

今回は、中世史（一二世紀末から一六世紀末）の鎌倉時代から室町時代末までについて書くことにしたい。

鎌倉時代になっても「宗銭」の輸入は続いていた。それで三執権北条泰時は、一二二四年についに宗銭を日本通貨として公認した。泰時は、「御成敗式目」・「連署」等々功績が多く北条時代の基盤を築いた。

次に、室町時代では三代将軍足利義満が、一三九七年金閣寺建立を計画、死後完成。

これは「金売り吉次」等が東北より金を京都に運び、これを松井家が砂金等を化工したようであり、当時としては京都周辺に大変な話題になった様である。

室町末期、武田信玄が山梨県奥で金銀を採掘。これを一両金銀貨（四分）（一六朱）、つまり四進法で通貨として流通させた。これは松永家等々が制作した様である。

一五二六年大森銀山（石見）が発見され、生野銀山も一五三二年開発された。

関西以西は銀貨が主流となり、毛利家も銀貨経済で潤った。下関は外海の時化という要因もあって、大阪に次ぎ、次第に発展していった。

# 川柳

元永ミチコ

## 母さん偲びて

一、病める時　夢にて常に　父母の顔

一、母さんの　想い出いつも　笑顔だけ

一、母さんの　面影偲ぶ　月の夜は

一、母さんは　冬はあかぎれ　夏あせも

## 老いの日々

一、二度三度　今した事を　たしかめる

一、探し物　行きつもどりつ　常にする

一、洗濯機　終わって干すのは　忘れてた

一、ボケたねと　言われなくても　みとめてる

## マスク顔

一、マスク顔　今までよりも　ベッピンさん

一、マスク顔　下半分は　スッピンさん

一、マスク顔　私は丁度　しわかくし

一、マスク顔　早くコロナよ　消えてくれ

# 運転免許を習得したころの思い出

柴田昌俊

私はこの三月で八七歳になります。車の運転免許証更新のための講習は昨年十二月に終えました。三月には新しい免許証の交付を受けることになります。そうすると、その三年後は九〇歳です。その頃まで車の運転は続けるけれども、絶対に事故を起こさないようにと特に自分に言い聞かせながら慎重な運転を心掛けています。九〇歳以降のことはどうするか、今はまだ解かりません。

私が初めて原付バイクの免許を取得したのが昭和三十七年。その二年後には高速も走れる二輪車（自動二輪）の免許を取得しました。でも、自動二輪を買うほどの経済的な余裕はなく、九十CCのバイクが精いっぱいでした。これで、県内程度なら行きたいところには何とか行くことができ、原付よりもスピードも出せて便利になりました。その後、昭和四十三年に普通車免許取得、昭和五十年頃になって中古の二百五十CCのバイクを買ってみました。排気量は二百五十CCでもスピードは出せるし、高速道を普通車並みに走れるということで大満足でした。　でも、これで高速道を走ったことはありません。走れないときには走れるバイクが欲しかったのと、ちょっとかっこ良さを求めていたのかもしれません。

しかし、もうその頃は普通車があったので自動二輪の必要はなかったのですが、一度は自動二輪というものに乗ってみたかったということです。

原付バイクの次が九〇CCのバイクでした。

この方は原付よりも少しスピードが出せるし安定もよく、これに数年間乗りました。そのバイクで三隅の自動車教習所（今はもうない）に通い、普通免許取得のための教習を受けました。教習所の車は廃車寸前のおんぼろ車でした。エンジンがかかるとものすごく大きな音がしました。九百円払えば一時間の教習を受けることができたのです。自分の都合の良い時に行くだけでどの段階を何時間やるというような縛りはなく、全く自由で気楽なものでした。夏休み中でしたから私はそこに一〇日間位通いました。そこでは免許試験を受けることはできません。試験は山口の試験会場に頃

合いを見計らって教習所の先生が連れて行ってくださるのです。

私が教習所に行けば「今、教習車が多いし、車も空いてないから私と碁をやろう」と植木所長に誘われるままに碁ばかりを打っていました。所長からは「あんたは碁は上手いが車の運転は下手だね」と言われました。「それは指導が悪いからではないですか」と言いたかったのですが、そうも言えませんでした。折角車が空いているときでも指導してもらえなかったこともあったりして、そんな時は自主練習をしました。

猛スピードで外周を回ってみたり、見よう見まねの練習を適当にしたりしました。どちらかと言えば教え方もいい加減なところがあったような気もします。だから直接指導をを受ける時間も少なく夏休み中、お盆のころまでに一〇回位通い、その後は自分で、山口の試験場に勝手に行ってみました。そうしたら、三隅教習所の先生が教習生を引率してこられたのとばったり出会い、「あんたはここに来るにはまだ早いよ」と言われました。

そんなことがあって、教習所の先生との関係もあまりよくない状態になってしまいました。それから後は自分の努力で頑張って試験を受けるしかなくなりました。

ちょうど幸いなことに試験場のすぐそばに小さい自動車教習所がありました。試験で落ちた人にとっては都合のいいところでした。そこでは補修というか習いたいところだけを教えてくれるのです。その教習所からは試験場のコースがよく見えました。「きょうのコースはどこに〇〇があるので〇〇コース（A・B・C等だろう）」ということが分かるのです。それを参考に、注意点等のアドバイスを受け、試験に臨んだよな記憶があります。試験に落ちては教習所、また試験に落ちては教習所・・・。

結局、五回目の試験で何とか合格しました。考えてみれば三隅の教習所ではいい加減な練習ばかりしていましたから、そこの教習所が私にとっては一番良い勉強になったと思います。それともう一つ思い出すのは、試験場のエンジンがかかっているのにエンジン音が聞こえません。それで、始動のためにキーを回すと「エンジンはかかってますよ」と試験官に注意を受けたこ

とがありました。これは三隅の教習車の騒音に慣れていたからでした。試験に合格した日は夏休みも終わって二学期の初日（学校勤務は欠席させてもらった）でした。もし、この試験に落ちていたら冬休みまでチャンスはないのでした。だから、そんなことになれば、今までの練習は無に帰すことになったことでしょう。本当に幸運に恵まれ、嬉しかったです。

正規の自動車学校に行くのに比べれば遊び半分のような紆余曲折もありましたが、経費の面でははるかに安上がりでした。あの当時、山口まで通うとすれば車のない者は交通機関がJR等で限られたものしかありませんでしたから、なにかにつけて時間的なロスもあり大変でした。とにかく山口まで通うことはいろいろな苦労がありました。

しかし、私は九〇CCのバイクのおかげで通い続けることができました。考えてみると、

の九〇CCのバイクで未舗装の悪路を山口までよく通ったものと我ながら感心しました。

そんなある日、帰宅途中にタイヤがパンクしたことがありました。止むを得ずバイクを押して歩きました。このときは既に日が暮れていて三隅の山中で人家も殆どなく、そのまま家までパンクしたバイクを押して帰ることもできません（パンクしたバイクは重い）がどうするつもりだったのだろうか全く覚えていません。そうしているうちに道路際に一軒の民家を見つけ、そこの若主人がパンクの修理の道具を取り出してきて、慣れた手つきで見事に直してくれたのです。地獄で仏とはこのことかと思いました。その時の有難かったことは涙の出るほどでした。

その頃は自転車やバイクなどはよくパンクをしたものでした。特に田舎ではパンク修理を自分でする人が多かったです。その後そこを通る度に感謝の念が蘇り、その家に一礼をして通ります。今では未舗装の道路等を見ることもありませんが、あのころは舗装された道路は殆どなかったです。

この文を書いているうちにいろいろなことが思い出されました。思いがけない恐怖の事故も経験し、その中には死ななかったのが不思議と思えるものもありました。あるときには、砂利道で急ハンドルを切ったた

めに車は進行方向とは真反対方向に向いて急停車したこともありました。一回転はしたものの車は傷はつかず、自分自身の怪我もなく、ああ生きていたのかと冷や汗が出ました。道路はぬかるみがあったり、石ころがあったり、埃をまきあげたり、今では想像もできない状態だったことを思い出します。

私は日置中学校の頃は、原付（55CC）バイクでしたが、向津具中（川尻分校）の頃は九〇CCのバイクでした。週に二回は午後中村先生（故人）と二人が本校勤務でした。後ろに彼を乗せて往復しました。川尻から向津具に越す道は谷底のような狭い上にゴロゴロ道でしたからふらつきながらの運転で（三一～三二歳の頃）今頃ならとても考えられない二人乗りの危険な運転でした。

あの頃は若かったのと運転もうまかった（？）のか無謀だったのか思い出すだけでも怖いです。書けばきりがないほどいろんなことがありました。

今ではもう自分が何時死んでもおかしくない年齢に達しています。しかし、特に持病があるわけでもなく、まだしばらくは生きて行かなければなりません。そうであれば自分なりに健康には十分留意し、心身の強化鍛錬に努め、認知症機能低下には即免許証返納で対応しなければいけないと思っています。

とにかく、事故のないように、安全第一で余裕をもって運転しようと思っている今日この頃です。

## 四つ葉のクローバー

松岡紀美恵

私は三・四年前ごろから、早朝ウオーキングをやっております。

久富地区はおだやかな田園地帯です。

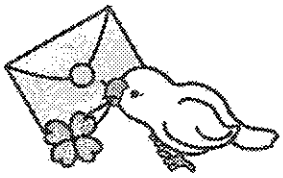
道端にはいろいろな雑草が生えております。クローバーもたくさんあります。ある時、全く偶然に四つ葉のクローバーを見つけました。

四つ葉のクローバーは、幸福のシンボルとして珍重されていますが、なかなか手に入りません。私は、二・三本手にしました。

花言葉は「勇気」・「相性」・「希望」・「未来」・「純情」だそうです。

きっと四つ葉のクローバーが「力」をくれるでしょう。

これからも早朝ウオーキングを続けていきます。



私は新聞を読んだり、ラジオを聴くのが好きです。一寸気に入った言葉がありましたので書いてみます。

・はたらかせてもらう
・おこらせるのはかんたん
・笑わせることはむずかしい
・今日できることを　全力で
・他人を　憎まず　自分を見捨てず
（詠み人知らず）

元気なようでも私もリハビリに励んでいます。こんな川柳を見つけました。

・「爺ちゃんが　歩いたやべえ」と誉められる
・リハビリは　ビリがついても　金メダル
・励ましの　言葉は　心の栄養素
・介護に　リハの成果を　ほめられる
・雨なのに　歩きたくなる　足になり

# 母と弟の想い出

元永ミチコ

私の実家は、十二才も私と年の離れた弟が継いでくれていました。

毎年母の日のことを考える頃、母が着る物もお金もいらないといったことを思い出し、姉二人と母と一泊の温泉旅行に行くことにしました。

あの頃は黄波戸観光ホテルと龍宮荘、ゆいの家もあって、ゆいの家と黄波戸観光ホテルの風呂からは、青海島が見えて、深川湾が見え、とてもきれいでした。

楊貴館は油谷湾の夕日が見えてきれいでした。湯免温泉にも行き、毎年「今年はどこにしようか？」と、決めるのも大変でした。

たまには弟が五万円とか置いて行ったこともありました。母の妹の伯母も何回か連れ出し、喜んでもらいました。私と姉とで猪口でお酒を少し呑んでは、流行の歌を口ずさめば、

「今、母さんも歌ったよ。」

と姉が言ってびっくりでした。

いつでも、とても楽しそうで大変喜んでくれていました。あの頃の母の笑顔は忘れられず、心に残っています。

それから母が、行かれなくなり、三人の温泉めぐりとなり、そのうち上の姉が入院したり、二人だけで四年くらい行って、姉もまた家族とでなくては不安になりました。

しばらくたって、今度は母親の看病となりました。長門病院に入院しているので、私と姉とで交代で行き

ました。弟嫁は病院の看護師で、自分の親だけを看るわけにはいかないので、私と姉の二人で看ていました。非番の時は嫁も来ていました。

大分通ったある日、私の付き添いの時、母は亡くなりました。亡くなる一時間前に話したのに、と思いました。

それから五年後、弟は心臓病で亡くなりました。病院から薬をもらっていたのに口にせず、テーブルの上に伏せて死んでいたそうです。弟嫁はその夜は夜勤で、運が悪かったと思いました。弟は五十八歳でした。母を送って五年目でした。

そして、母のことを姉と毎日電話で話していたけど、語りつくせぬ思いで、二人で俵山温泉に行って話そうと宿に二泊の予約をして行きました。一泊目は夜中の二時過ぎまで話しても話は尽きることなく、次の夜も遅くまで話して、二泊はすぐ時間が経ちました。

いつまでも温泉めぐりの想い出と、母の笑顔が忘れられません。

在りし日の　母に伴い　湯めぐりの
笑顔が　浮かぶ　今日も湯船で

追伸

弟も病院の事務員として働いていました。よく我が家に来ては、コーヒーを入れてくれと言って、来てくれることがうれしく、たまには車でいろいろと連れて行ってくれて「私と姉」と食事に連れて行ってくれました。

弟の嫁は病院を定年しても、施設の方で七十五才まで働きました。そして今は、野菜作りをしています。我が家にも時々野菜を届けてくれます。

かっぱ川太郎

病魔は突然やってくる
　かっぱの世界も大騒ぎ

長谷川倭子

江戸小石原といえば、町なかよりかなり離れた土地であり山あり川ありと広大なところである。その土地に代々続く薬種問屋がある。うしろに山を控え薬用にするため　松・竹・梅・銀杏・柿・栗と各種の木が植えられている。広い庭は干し場にも利用されている。山から湧き出す水は清らかで大きな池にそそがれる。

また、特別の岩清水は粋人に好まれ遠方より求めに来る。代々仙右衛門を名乗り薬一筋に続いている。各地より薬草を集め用途に応じている。薬師もおれば弟子もいる。いろいろな医者が出入りして研究に余念がない。番頭や丁稚たちは季節ごとに薬草園を訪ねて必要なものを買い求めてくる。この岩田屋の大きな池の一番奥に三匹の女河童が飼われている。茂った樹の下に住み着いているから知っているのはほんのわずかである。大旦那の口止めである。毎日池を一周するのが主人の仕事始めである。

噺家の彦市は　江戸へ来るときはまず此処へ寄る。和尚と大旦那も仲よしである。

旦那も話を聞きたがり　彦市も各地を歩き廻る番頭たちの話も聞きたい。

彦市が訪ねたのは梅の花が蕾の頃であった。

江戸の町が一大事である。

たくさんの人が　下痢・嘔吐を続け食い物は受け付けず　米のとぎ汁のような便が流れるように出る。餓死同然に死んでいく。今で言う感染症で　次々と倒れる。医者という医者のほとんどが手を付けられない。

医師の一人で　蘭学者の緒方洪庵という人がいる。長崎で勉強をし江戸で開業している。

漢方にもくわしい。

この病気は日本古来の病気ではない。外国から突然入ってきたものでおそらく外国船の船の積み下ろしの船員たちから感染したと思われる。今のところ薬は全くない。ただ言えることは絶対生水を飲まないこと。江戸の水は決して綺麗とは言えない。生の魚も食べぬ方がいい。家の周りを清潔にすることも大事。迷信や占いに惑わかされないようにきびしく注意した。

大旦那が彦市に言う。

「どうする。他所の土地に行くかい。それともここで様子をみるかい。」

「大旦那　厄介じゃろうが　しばらく置いておくれ。水汲みでも薪割りでもするから。疫病がどうなるか見てみたい。」

彦市は早速手紙を書いた。和尚や庄屋に江戸で流行っている疫病について記し

薬がないこと。生水をも飲まぬことを　みんなに知らせるがいい。かっぱ川太郎も大川で遊ばないで山から出る小川を利用するがよいと知らせた。

一方　小石原にある薬種問屋では　作業場の一郭にある座敷に番頭・丁稚を集めて大旦那の話。

「われわれが知らない病気が蔓延している。いまだに的確な薬が見つからない。しかし洪庵先生の言われ

るように　生水は絶対にダメだと思う。私は薬草を煎じて飲むがいいと思う。貧しい者たちは　江戸にある店で　無料で飲ませようと思う。今回の外廻りはそのことを考えて薬草類を仕入れてきてほしい。」話は終わった。出発は各自、それぞれである。

かっぱの川太郎が居る寺へ行くのは　良太と言って元気な番頭である。川太郎とも顔なじみである。

良太は会田の早立ちを用意していると女中頭のおまきさんがやってきた。

「番頭さん。」大旦那の封書だよ。又　歌の添削だろうよ。はい。これは蜂蜜だってさ。」

あくる日　良太は元気よく出発した。いつもの定宿に着くと　おかみさんが愛想よく迎えてくれて　いつもの部屋に案内してくれた。

良太は預かり物の蜂蜜が大丈夫かなと薬箱を開けようとすると　中からとんとんと音がする。吃驚して蓋を取ると　なんと女河童の「はな」がニコニコを笑っている。岩田屋の池にいる一番下のお茶目である。良太が出発する前　厠に行ったその時をねらって入り込んだと言う。

良太はしばらく腕を組んで考えた。そして宿の主人の前に座った。

「誠に申し訳ないが　大旦那様に急用が出来たので今から手紙を書きますが　これを明朝　早飛脚で岩田屋に届けてほしい。尚　勝手ながら私はそれほどお金を持っていませんのであちらでもらってほしい。どうぞ、お願いいたします。」

「はい　はい　お安い御用です。それじゃ番頭さん」

早速手紙を書きなされ。すぐに手配をするからな。

あー、晩飯は部屋に持って行かせよう。そのほうが落

ち着いて書かれよう。」

良太は委細をしたため　次の定宿で待つことにした。女河童は良太の晩飯を遠慮なく食べている。

明朝はいつも通りの早立ち。昼には早いが手頃な地蔵堂があるのを知っていてそこで止まる。堂の後ろには山から出る清水が溜められている。誰にも見られないように「はな」を水につけてやる。にぎり飯を分けてやり、また薬箱へ。これで夕方まで大丈夫。

いつもの宿近くになると　おかみさんが手を振って

「番頭さん　大旦那から早飛脚だよ。」

と告げた。早速荷物を置いて封を切る。

「良太　心配かけてすまん。花を和尚のところまで連れて行ってくれ。たしかお前は馬に乗れたはず。この主人に馬を頼むから　途中の店は後回しにしてまずは妙信寺へ行っておくれ。この宿の亭主には別に書付を渡すから金の心配はしなくていい。帰りも荷物を積んで帰るがいい。茶葉が不足しているので頼む。和尚には伝便で知らせておいた。」

朝、馬が待っている。宿の主人が　わらで編んだ丈夫な籠を持ち出し小さな笠まで用意してある。良太の薬箱とつないで馬の背にかけた。ここの主人はどうやら女河童のことを知っているらしい。馬はおとなしく利口そうでゆっくり出発した。主人とおかみが手を振ってくれた。

女河童のはな道中　外の景色が見えるので大喜びである。何事もなく寺に着くことができた。馬の足音に気づいて　お民ばあさんが厨より顔を出した。

「あれまあ　これは番頭さん。なんで馬で来なさった。」

「すみません。話はあとで。和尚さまへ　岩田屋が

来たと告げてくだされ。」

馬から籠と薬箱をおろした所へ和尚が出てきた。番頭の後ろに小さな女河童も立っている。

「番頭さん。大変だったね。どれどれこれが家出河童かい。おーおー疲れたかい。お民さん　何か芋でも出しておやり。」

ちっちゃな女河童は丁寧に頭を下げた。

「よしよし　しばらくここで修業をするがいい。あとで川太郎のじいさんや　亀の長老がいる池に連れていって　よく願ってやるからね。なにしろ川太郎は忙しくてね。」

どうやら女河童の世話は　じいさん河童・亀の長老とお民さんに任されそうだ。

かっぱ川太郎が作業場から帰ってきた。岩田屋の番頭良太と和尚の話を聞いて驚きの連続である。それでもかっぱ川太郎は言った。

「はなちゃん　よく来たね。ここはみんなよい子ばかりだから仲良くしてね。おいらのじいちゃん・亀の長老さんに　何でも教えてもらってね。困ったときは和尚さんやお民さんがいるから心配いらないよ。じいちゃん。頼むよ。はなちゃんは和尚の預かりものだからね。おいらはまだ今から薬草の手伝いがあるから。」と池を飛び出して行った。

あくる日は天気もよく　薬種・茶葉を馬の背に乗せ出発だ。みんなに送られる。かっぱ川太郎が　ちびの女河童を抱いて手を振った。

江戸の疫病が気にかかるが致し方ない。

そのうち彦市から便りが来るだろう。

絵手紙　上野洋子

## 筋力運動はじめました

上野洋子

お友達にさそわれて　「いきいき百歳体操」をはじめました。DVDデッキ・DVD・テレビ・血圧計・錘（おもり）等。何もかも揃えていただいて「いたれりつくせり」の筋力体操です。体操前の血圧の記録ノートやボールペンもあり、お互いが計り合い、記録します。体操の後もう一度計り記録します。

錘（おもり）も二か月頃から二本にしています。百歳体操に加えて、ころばん体操、NHKのみんなの体操、タオル体操等と、少しづつ欲が出て来ました。

目下は、コロナ除けに気配りが必要です。

マスク、NO密、換気、手洗い、消毒等々。

まだ当分は、とり合って・・・なんてことは無理でしようネ。

毎週月曜日午後一時半から、会場は、河原農業研修センターです。

興味のある方、いつでも歓迎です。

## 消える？『ハンコ』

いろいろな書類に、住所・氏名・電話等々書いて、さて『ハンコ』を探そうかな？と動きかけると「いいですよ。」と言われることが多くなってきました。ありがたいような物足りないような複雑な気分です。

ずい分昔のことですが、英会話の外国人の先生は、大きなトランクを押しながら大きな体をゆすって学校に来ていました。

英語の歌を教える時、ピアノがとても小さく見える程でした。後向きでピアノを弾いたりもして、生徒を笑わせました。先生の名はアレキサンダー。荒木三太と翻訳して、再に『アラキ』という「ハンコ」を作っていました。

また、ヤギひげをはやしていた先生を、みんなは「ヤギ先生！ヤギ先生」と呼んでいました。

彼はまじめな顔をして『八木』というハンコを使っていました。

想い出の中で、その頃の先生の姿はそのままで、今もお元気で楽しんでおられるような気がしています。

## 令和2年度　人丸学園　年間活動記録

| 実施日 | 行事名 | 行事内容 |
|---|---|---|
| 4月22日（水） | 開講式 | 令和元年度事業報告他<br>書面議決 |
| 6月12日（金） | 第1回運営委員会 | 令和2年度年間計画他<br>場所：ラポールゆや　視聴覚室 |
| 8月25日（火）～ | あいさつ運動参加・<br>ぞうきん寄贈 | 油谷地区内保育園・小中学校 |
| 10月29日（木） | 油谷の歴史いろはかるた講座 | 子どもと学ぼうカレーライスとサロンの日<br>場所：油谷小学校 |
| 11月18日（水） | 合同講演会 | 講話～さらに元気にフレイル予防～他<br>場所：旧伊上小学校 |
| 2月25日（木） | 第2回運営委員会 | 合同講演会の計画<br>場所：ラポールゆや |
| 3月2日（火）～ | 高齢者学級作品展 | 作品展<br>ラポールゆや　コミュニティーホール |
| 3月4日（木） | 第2回合同講演会 | 講師：人丸学園　田中富惠他<br>ラポールゆや　コミュニティーホール |
| 3月17日（水） | たわごと会議 | 文集たわごとの作成について<br>ラポールゆや　研修室2 |
| 3月24日（水） | たわごと製本・閉講式 | 文集たわごとの製本他<br>ラポールゆや　視聴覚室 |

## 令和2年度　人丸学園会員

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 田中　富惠 | 会長 | 7 | 竹下　勢津子 | 13 | 古川　繁子 |
| 2 | 松岡　紀美惠 | 会計 | 8 | 中村　昭三郎 | 14 | 上野　洋子 |
| 3 | 一戸　和男 | 監査 | 9 | 熊谷　寮 | 15 | 前田　信子 |
| 4 | 長谷川　倭子 | たわごと担当 | 10 | 上村　英子 | 16 | 元永　ミチコ |
| 5 | 柴田　昌俊 | 地区役員 | 11 | 吉岡　敏昭 | | |
| 6 | 佐方　貞子 | 地区役員 | 12 | 吉岡　正子 | | |

絵手紙　田中富惠

令和二年度は、コロナ禍の中で全く先が見えないうちに月日が経ってしまいました。

皆様の生活はいかがですか？

オリンピックもままならない有様。

ちいさな、ちいさな人丸学園の存亡も、あやしいものです。

会員が一人でも二人でも入会してくださることを切に願っております。

自分が楽しみ、自分ができることを、ゆっくりやってみようではありませんか？

絵手紙　田中富惠

令和二年度
高齢者学級文集第三十八号

たわごと

発行　令和三年三月三十一日
編集　油谷中央公民館高齢者学級
発行者　学級代表　田中　富惠
表紙題字　元油谷中央公民館
　　館長　末永　武
表紙絵　手にもつミヤコ忘れ草
　　多記　英雄
製版者　油谷中央公民館